

仙台と那覇の高層気象観測廃止に反対する声明

気象庁は、2008年3月31日をもって、国内18か所で毎日2回(00・12UTC)行われている高層気象観測のうち、仙台管区气象台と沖縄气象台における高層気象観測を廃止することを決定した。また、残る16か所についても見直しをしていくとしている。

高層気象観測は、気球につけた観測装置で、地上から約30km上空までの風向・風速、気温、湿度、気圧を観測しているもので、その観測値は、

1. 風向・風速変化、気温、気圧の確認
2. 鉛直・水平 Shear の確認
3. 広域悪天予想図の予測と実況差の確認
4. 乱気流(着氷)に遭遇したときの原因究明
5. 小型機・ヘリコプターの中・下層での風向・風速、気温、気圧の確認

等に利用されている。

運航関係者にとっては、航空路上の強い揺れや危険な空域を避けるための貴重なデータであり、大気の状態を直接測定した高層気象観測データが依然として重要な意味を持っている。

仙台の観測値は札幌ー東京間の飛行コース上空(約10,000m)の大気状態を読み取り、航空機に重大な影響を与える乱気流等を避けるための判断に役立てている。また沖縄の観測値は、梅雨前線や台風の解析をしていく上で重要な資料となっている。

航空安全推進連絡会議は、より精度の高い気象観測のために、仙台・那覇の2か所の高層気象観測の廃止に反対する。

2008年3月27日

航空安全推進連絡会議(航空安全会議)

〒144-0043 東京都大田区羽田5-11-4 フェニックスビル

TEL: 03-3742-9359 / FAX: 03-5705-3264

e-mail: jfas@star.odn.ne.jp

home page: <http://www1.odn.ne.jp/~ckk65780/>